

笹川平和財団及びバングラデシュ・インディペンデント大学
ベンガル湾研究所共催国際会議

モメン外務大臣、御出席の皆様、

本日は、自由で開かれたインド太平洋地域における持続可能なブルーエコノミーをテーマとした国際会議にメッセージを寄せることができることを光栄に思います。

本年は、日・バングラデシュ外交関係樹立50周年という重要な年です。日本とバングラデシュは、両国のよく似た国旗に象徴されるように、この50年間、親密な関係を築いてきました。このような記念すべき年に、私も、モメン外務大臣と二度にわたり会談を行うことができました。

翻って世界を見渡せば、世界中で、力による一方的な現状変更の試みや威圧が躊躇なく正面から行われ、国際秩序が揺らぐ事態に直面しております。そのような中で、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」の重要性は益々高まっています。

FOIPは、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序をインド太平洋地域に実現するというビジョンであり、地域・世界の安定と繁栄に不可欠なものです。FOIPが掲げる法の支配や航行の自由といった基本原則の普及・定着、連結性強化を通じた開かれた経済的繁栄、平和と安定の確保といった取組は、バングラデシュが重視する持続的なブルーエコノミーの推進にも資するものです。

バングラデシュは、東南アジアとインド亜大陸を結ぶ要衝に位置し、地域の発展において重要な役割を果たす、FOIPの実現に向けた重要なパートナーです。日本は、「ベンガル湾産業成長地帯」構想、いわゆるBIG-B構想の下、マタバリ深海港開発を含む様々なインフラプロジェクトを通じて、引き続きバングラデシュのLDC卒業とその先の更なる発展を後押ししてまいります。また、この構想は、貴国のみならず、周辺地域との連結性の強化を実現し、地域の発展に貢献していくものです。

本日の会議では、持続的なブルーエコノミーの推進や連結性の強化、環境問題などベンガル湾が抱える諸課題への対応など、貴国のオーナーシップによる取組の中で、いかに我が国の協力を活用していくかといった点について、充実した議論が行われることを楽しみにしております。

両国が新たな50年を歩み出すこの重要な節目に、日・バングラデシュ関係を更なる高みへと引き上げ、「自由で開かれたインド太平洋」を実現していくべく、本日ご臨席の皆様にも、引き続きご協力をいただければ幸いです。

ドンノバッド。ありがとうございました。

(了)